

私っていいね！～つくり出す形・色、ひびき合う感性、今を生きる私たち～

長野県美術教育研究会は、76年の長きにわたり美術教育の充実を希求し、数多くの実践と成果を残してきた。

その研究の歩みを辿るべく、過去の大会テーマを紐解いてみた。全造連大会の大会主題は、昭和33年度「図画工作の本質を検討し今後の対策を立てる」(長野市)、昭和59年度「心おどらせてとりくむ造形」(更埴市)、平成7年度「いのちにふれる造形活動—つくるよろこび 自分らしさの表現を求めて—」(下伊那)、平成18年度「私っていいな！ “いろ・かたち” 生きあい 学びあい」(長野市)のように変化してきた。

そして、全人教育の充実のために美術教育が果たす役割を全会員が再認識し、その実践に当たっては、指針となる全県テーマを掲げて歩むことが必要だという願いのもと、平成23年度からは長野県美術教育研究会の全県研究テーマ『ひびき合う感性「私っていいな！」 楽しく “子どもアート”』が設定され、昨年度までの11年間に渡って、この研究テーマを軸にした研究が進められた。とりわけ平成29年度には、「私っていいな！ つながる ひろがる アート響・同・体」のテーマのもと、佐久での全造連大会が開催されたことは記憶に新しい。

私たちの研究の中心には常に子どもがいる。子どもが主役の研究である。これまでの大会テーマが「心おどらせて」や「いのちにふれる」「私っていいな」などのように、子どもを主語にしたものであることから、長野県の美術教育が大切にしてきたことを読み取ることができる。

図画工作科・美術科は、楽しく活動や制作、鑑賞をしながら、自分自身のもっている感性や創造的な思考を発揮し、自分らしく表現する喜びを味わうことのできる教科である。子どもの学びをとらえると、つくり出される形や色などから新たな発想や技能を生み出し、互いのよさや工夫点を語り対話する中で、自分の表現や鑑賞の活動に浸り混み、その中で自信が生まれ、自己肯定感を感じる姿が見られる。

「つくり出す形・色」「ひびき合う感性」、これらの資質・能力を存分に発揮し、「私っていいね！」と実感できる姿が、どの子にも見られることを願っている。「私っていいね！」をキーワードにして、子どもたちに「今日の図工では、いくつ、いいねマークがつけましたか」と投げかけたり、明日の授業はこの子にとって「いいね！」が感じられる授業になるだろうかと考えたりすることで、目指す授業づくりにつなげていきたい。

また、私たちは、これまでの研究を進める中で、美術教育が一人一人の子どもの可能性を引き出し、子どもたちの「生きる力」を育む役割は大きいという実感を得てきた。学習指導要領では「生活や社会の中の美術や美術文化などと豊かに関わる資質・能力」を一層重視していることから、子どもたちが、今現在、取り囲む環境に積極的に関わり、「今を生きる」なかで、友のよさにも触れながら、自己肯定感をもって生きる力を育んでほしいと願っている。

多くの先生方とともに、このような願いと考えに基づいた実践を積み重ね、すべての教室の図画工作・美術の授業を充実させ、子どもたちに無限の可能性と希望を与えたい。本会の活動が、テーマを目指して展開され、美術教育によって、子どもたちの未来がさらに輝くものになることを願い、全県研究テーマ「私っていいね！～つくり出す形・色、ひびき合う感性、今を生きる私たち～」を設定した。

(研究推進委員長 三郷中学校 沓掛 隆)